

講義タイトル	文学や映画から環境を考える	学科名	人間生活学科
		講師名	水野 敦子/教授
		専 門	アメリカ文学

概 要

2011年の東日本大震災の福島第1原発事故は、原発を続けるかどうかという待ったなしの選択を我々に迫りました。また、2018年7月の西日本豪雨災害をはじめ、世界中で多くの自然災害が発生し、土地や建物、道路が崩壊し、多くの犠牲者がでています。我々は、これまで経済発展や生活の便利さを追求してきましたが、多くの自然災害に襲われ、文明と自然との問題を自分自身の問題として考えなければいけないことになりました。

環境文学というと、企業が廃棄した水銀による水俣病で苦しむ人々を描いた石牟礼道子の『苦海浄土 わが水俣病』や、殺虫剤の危険性に警鐘を鳴らしたアメリカの女性作家レイチェル・カーソンの『沈黙の春』が代表作です。水俣病の悲惨さを写真を通して世界に発信したのがアメリカのカメラマン、ユージン・スミスで、彼の活動を描いた映画『ミナマタ』がジョニー・デップ主演で公開されました。ジブリ・アニメでは、宮崎駿が『風の谷のナウシカ』、『千と千尋の神隠し』、『崖の上のポニョ』など多くの作品で、人間の自然破壊に対し厳しい問題提起をしています。自分たちの住む地球環境の脆さを改めて意識し始めた現在、文学や映画を通して環境の問題を考えてみたいと思います。